

## 無所属クラブ アメリカ視察レポート

2013/7/8~7/17

### 7/8

・飛行機トラブルで急きょ、カナダバンクーバーへ。

自主的にバンクーバーの自転車事情を視察。

自転車は自動車とともに車道を走るよう環境が整備されており、マナーが確立されている。



<自転車道>

### 7/9

・ポートランド市。市長夫人のナンシーさんと、州立大学教授のサラさんのアテンドで持続する都市計画について、居住環境と自然についての視察とミーティング。



<左から、通訳、ナンシー市長夫人、サラ教授>

・ポートランドは、渋滞や環境面や持続する街づくりなどの観点から、移動手段としての自動車利用を見直し、高速道路建設よりも自転車道、路面電車の整備に力を入れる。



<自転車道と駐輪場>



<路面電車（ストリートカー）>

・みどり豊かで自然に配慮した街並み。ペットにも優しい。コンパクトな街づくりを推進するため、1ブロックを通常の半分の60メートルで区画整理している。



<街頭の日よけ>



<犬の排泄物 BOX>



<街路灯の花の植栽>



・自転車に優しい街づくりが印象的。病院が運営するロープウェイに乗り、街を見渡せる高台にて街の概要、開発状況などのディスカッション。



<ロープウェイで高台の病院へ。テラスにて街を一望する>



<自転車も乗り込み可能な路面電車の車内>

・市計画局のトム・アームストロング氏とミーティング。  
ポートランドの都市計画においては、5人のボードメンバーから成る街の有識者会議で30～40年間の都市計画の具体策が話し合われる。決定された事項については、行政へ提言され、とても重要視されるという。  
ボードメンバーには、ネイバーフッドと呼ばれる市に認められた公式の近隣組織団体の代表者なども入っている。ネイバーフッドは日本での町会連合会と似ているか。



<アームストロング氏とのミーティング>

・ウォーカーメイシー社のダグラスメイシー社長とミーティング。

低炭素な社会と緑の街を目指しているポートランドでは、新しくビルを建設する際には、公園など一定の緑地を計画に盛り込む。渋谷の公園との差異などについてディスカッションをする。同社が携わった市内パール地区の公園は翌日視察予定。



<メイシー社長とのミーティング>

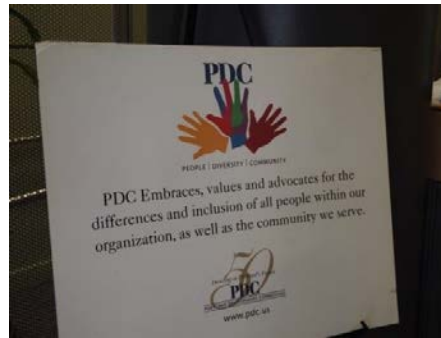
<市内の公園>

## 7/10

・PDC（ポートランド市開発局）のロウ・ボーワーズ氏、山崎満広氏とのミーティング。ポートランドの街づくりと渋谷の都市計画との接点を探る。

・PDCは市長・市の部局が作成した開発計画を実行する機関。25～30年ほどかけて現在は市の南側パール地区を開発している。

・新たに開発が決まった地区では、約20年間固定資産税に上限を設け、その間の資産価値の上昇にともなう税収を先回りし、資金の借入れを行う。PDCや開発業者はその資金であらかじめ策定された都市計画を実行に移す。



<PDCのボーワーズ氏とミーティング>



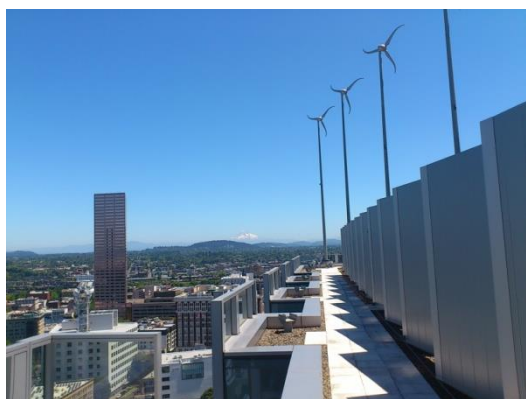
<ナンシー市長夫人とPDCフロントにて>



・環境建築設計事務所の大手 ZGF 社の渡辺義之氏とランチミーティング。  
同社設計のビルは環境に優しく、同時に、賑いも絶えない街づくりの両立を目指している。  
本社ビル屋上にも、風力発電設備や太陽熱を利用する設備が備えられている。



<ZGF 社本社屋上テラスにて渡辺氏とミーティング>



<ZGF 社本社屋上の風力発電設備>

・6~7 割かそれ以上のエネルギー&水利用の経費削減を目指し、住居、オフィス、リテールを組み入れたミックスユース・ビルの活用により 24 時間賑わう街を目的とした新しい街づくりの手法について。同氏からは、渋谷区役所新庁舎も環境に配慮した、また渋谷ならではのミックスユース・ビルにしてみてもどうかとの助言もいただく。



<ZGF 社フロントのオブジェとミックスユース・ビルの外観>

・現在開発中のパール地区を視察、ナンシー市長夫人アテンド。  
 昨日訪問した、ウォーカーメイシー社の手がけた緑と水の公園を視察。  
 渋谷の公園との違いをディスカッション。



<市長夫人とパール地区の街並みを視察>



<ウォーカーメイシー社の手がけた公園を視察>

7/11

・ボールドー市内視察。  
 井沢敬氏のアテンドでオー  
 ガニック専門マーケットの  
 アルファルファ、ホールフー  
 ズマーケット等を視察。



<オーガニックマーケット>



7/12

・ボールダー市観光局のキム・ファーリン氏、市内在住著名建築家リチャード・フォイ氏と朝食を取ながら環境に優しい街づくりをテーマにセッション。

フォイ氏は六本木の東京ミッドタウン地下にあるレストラン街の設計者。



<フォイ氏とディスカッション>



<ボールダーの友好都市山形市>

・ボールダーは街の周りに市が買い上げたフリースペースを持ち、緑を確保したり、農家へ貸し出したりして乱開発を避けている。

・3階建以上の建物は建ててはいけない。コンパクトサイズの都市計画にして大規模開発をあえてしない。

街全体が自然を意識した景観、人々で覆われており、美と健康とインテリジェンスがバランスよく保たれている街がボールダーとキム氏はコメントしていた。ただし、全米でもそのような都市計画で成功している街は少なく、高所得者が中心に移りすみ、土地が少なく、コンパクトな事もあって、地価が高く、若い人達が住めなくなってしまったという難点も指摘されていた。



<市内の山々の景色とフリースペース>



<車イスの方も山岳救助隊！>

・コロラド大学教授のジョージ・デリソー氏とランチミーティング  
氏は、若い人が集まるビジネススペースを提供している組織のメンバー。  
ソーシャル・アントレプレナー（金銭目的ではなく、社会貢献を目的とする NPO 等）を後押ししている。ボールドーには多くの社会企業家が集まって活動している。この世界の日本との文化の違い等についてディスカッション。



<デリソー氏のオフィスにて><オーガニックレストランにてランチミーティング>

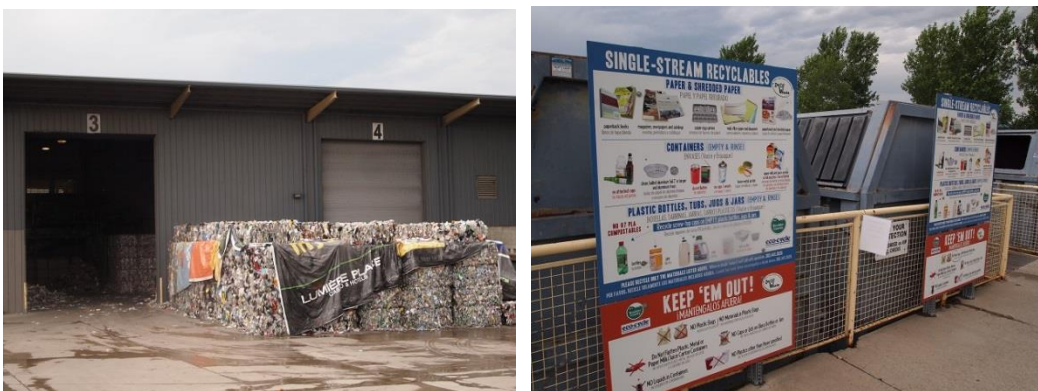


・ナチュラルリー・ボールドーのビル・キャプサリス氏とオーガニックコーヒーショップでミーティング。全米 NO.1 オーガニック都市ボールドーについてセッション。オーガニックビジネスを立ち上げる企業・人をサポートする組織がナチュラルリー・ボールドー。年間 45 ドルの会費で、様々なサポートをしている。ボールドーの多くの企業の事業計画や売り上げ等の資料をナチュラルリー・ボールドーが集めて、ビジネスをサポートしている。どの産業が伸びているのかなど、ナチュラルリー・ボールドーの集計したデータに注目している。集計作業はコロラド州立大学が請け負っている。ナチュラルリー・ボールドーは業界団体として市に対して産業育成の発言権が増してきている。渋谷でオーガニックビジネスにどう行政と民間が絡めるかなどディスカッション。



<ビル氏が経営するオーガニックコーヒーショップでミーティング>

・ゴミ収集施設視察、市民が自ら車でやって来て仕分けして出していた。多くのゴミは環境配慮し焼却するのではなく、埋め立てる。



<ゴミ収集施設と分別の説明図>

・リサイクル施設視察。NPO のリサイクル業者さんと話すことが出来た。リサイクルセンターでは高齢者宅には回収に行くが、基本は自らが持ちこむ。市民はリサイクルの意識が高いが、経済発展に伴い物があふれ残念ながら埋め立ては増えているとの事。



<リサイクルセンターの方とディスカッション> <微生物利用の液体肥料の販売も>



<家具などの再資源販売所>

- ・トレイルコースとドッグランを視察



<トレイルコース>





<ドッグラン>

・合気道道場を視察。YMCA。日本の武道の発展に寄与している井沢氏の活動についてディスカッション。井沢氏にはボルダー視察中の通訳も務めていただいた。



<合気道道場 稽古を視察>

7/13

早朝、ファーマーズマーケット視察。渋谷の国連大学前のマーケットとの相違などをディスカッション。前日お会いしたフォイ氏と朝食を取ながら街づくりにつき、セッション。フォイ氏からは渋谷区役所の新庁舎のコンセプトやアイデアを助言いただく。



<ファーマーズマーケットの様子>



<フォイ氏とのディスカッション>

・動物愛護センターを視察。ボランティア団体が運営。多くの企業や個人の寄贈でセンター運営は成り立っている。日本に行って、保護犬を連れて帰ってきたこともあるそう。日本の動物殺処分の現状との違いについてディスカッション。



<動物愛護センター センター内のクリニック>

7/14

・サンフランシスコ市内視察。LGBT の先駆エリアのカストロ地区を視察。街の至る所にLGBT のシンボルであるレインボーフラッグを見かける。



<普通の家に掲げられるレインボーフラッグと街中の同性愛ポスター>



7/15

・市内ジャパントウンにて越川威夫氏のアテンドで日系現地法人ニューピープルの堀淵清治社長と LGBT とアメリカでの渋谷・原宿をテーマにミーティング。

日本のポップカルチャー等の発信の仕方や、文化・伝統などを世界に伝える手法についてディスカッション。まだまだ日本には世界に伝えるべきものがあるし、それはニッチな分野に宝が隠されていると氏は語っていた。原宿カワイイ大使でもあるくきやリーぱみゅぱみゅが先にアメリカでブレイクしたのが良い例ではないか。日本での交番などという仕組みは海外では見られない。うまく外国人観光客に注目されるようなスポットに出来たりするのでは。等々のセッションがあった。

サンフランシスコ市の LGBT 人口が全体の 3 割を占め、政治も行政もその存在を認めざるを得ないこと、渋谷区が独自に LGBT 証明書などの発行を行うことは、多様な価値観を認め合う街、ダイバーシティ・シブヤの名を世界に発信することになると、堀淵氏に激励された。



<ジャパントウンの街並み>



<堀淵氏のオフィス訪問、ミーティングの様子>